

概 要
<p>第 28 回 市民と市長の対話ひろば ～もりりんと語ろう、宝塚市の未来～            テーマ：宝塚文化芸術センター（たからば）・手塚治虫記念館周辺のにぎわいづくり</p>
<p>日時：令和 8 年 5 月 26 日（火） 午後 6 時～午後 7 時 50 分            場所：宝塚文化創造館 ホール            参加者：22 名            出席者：森市長            都市安全部 江崎部長 他            産業文化部 鈴木部長 他</p>
<p>《市長のテーマ説明》</p> <p>1. 開催の趣旨と今回のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は 5 月のテーマに沿う形で宝塚文化創造館を会場として開催した。また、今回の対話前には宝塚文化芸術センター（たからば）庭園の見学ツアーを実施した。</li> <li>・2028 年の手塚治虫氏生誕 100 年を記念し、宝塚らしさが詰まったこのエリアをどう盛り上げていくかを考えたい。</li> <li>・市としてアイデアを固定せず、市民からやってほしいことや避けてほしいことを含めた多様な意見を募り、一緒に考えたい。</li> </ul> <p>2. エリアの歴史と立地の重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宝塚ファミリーランドは 1960 年～2003 年まで存在し、宝塚市民だけでなく京阪神全体の住民にとって、大切な思い出が残る場所であった。</li> <li>・ガーデンフィールズは宝塚ファミリーランド跡地に作られた英国風庭園の施設であった。植物の一部は、現在のさくら橋公園などに移植された。</li> <li>・たからばとその周辺は、宝塚駅と宝塚南口駅の間に位置し、宝塚大劇場、手塚治虫記念館、宝塚文化創造館、文化芸術センターなどが集まる観光・文化・商業の中心地である。</li> </ul> <p>3. 周辺文化施設の現状と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手塚治虫記念館は市の直営施設。2000 冊以上の漫画や展示を通じて手塚治虫氏のメッセージを学べるほか、アニメ制作体験コーナーやオリジナル短編動画の放映、火の鳥モニュメントなどがある。</li> <li>・宝塚文化創造館は宝塚音楽学校の旧校舎を活用した施設。すみれミュージアムで歌劇の歴史を学べるほか、ホールでのイベント、日舞・バレエの練習教室として活用されている。</li> <li>・文化芸術センター（たからば）はメインギャラリーでの展示や、ライブラリー、おおやね広場、ガーデンハウスなどがあり、憩いの場やイベントスペースとして機能している。</li> </ul> <p>4. 宝塚市立文化芸術センター及び宝塚文化芸術センター庭園（たからば）に係る管理運営の基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力の継承と創造：世代を超えて楽しめる多彩なアートや展示を実施している。</li> </ul>

- ・創造力の育成：子どもから大人までがアートを楽しみ、学べるワークショップを開催している。
- ・コミュニティの形成：庭園やさくら橋公園でのボランティア活動など、地域住民の活動拠点となっている。
- ・地域の活性化：西谷野菜の販売や、様々な地域イベントの場として活用されている。
- ・地域課題の解決への貢献：福祉、国際交流、教育、産業振興といったプロジェクトやイベントと連携している。

## 5. 手塚治虫氏生誕 100 周年を見据えた今後の展望

- ・2028 年 11 月 3 日の生誕 100 周年を迎え盛り上げの契機とする。
- ・手塚治虫氏生誕 100 周年以降も持続的に賑わう場所にするをを目指す。ファミリーランド時代のように、市外からも何度も訪れたいと思ってもらえるような宝塚らしいテーマ性を模索する。
- ・莫大な費用をかけるのではなく、様々な知恵と工夫を凝らしながら、市民の憩いの場と市外からの観光拠点を両立させていきたい。

### 《対話》

#### 1 参加者【手塚治虫記念館とたからばの魅力・発信について】

- ・近所に住んでおり、子どもとよく手塚治虫記念館を訪れている。手塚治虫記念館内の本をじっくり読めるコーナーは子どもがとても喜んでいるが、魅力がまだ十分に知られていないのではないかな。
- ・事前ツアーで見たエリアは、遠くのバラ園まで行かなくても素敵なバラの香りや珍しいアジサイが楽しめ、英国風庭園の雰囲気があって素晴らしかった。もっと上手に宣伝・発信していくべきであり、自分も今日を機に周囲に宣伝したい。

#### ➡市長

- ・手塚治虫記念館の漫画が読めるコーナーはゆっくり過ごせる場所なので、ぜひ多くの方に見ていただきたい。今の世代の子どもたちに手塚治虫氏の作品を知ってもらう良いきっかけになる。
- ・メインガーデンは魅力的な場所であるにもかかわらず、市民が思っている以上にまだ外に知られていないと感じている。特に敷地の奥にあるガーデンハウスは、カフェがあってもおかしくないと思えるほど素敵な場所なので、今後どのように活用していけるか、ぜひ皆さんと一緒にアイデアを考えていきたい。

#### 2 参加者【さくら橋公園の工事用囲いを活用した PR とエリア全体の雰囲気づくりについて】

- ・事前ツアーに参加し、普段何気なく見ていた景色や樹木に深い歴史があることを知り、大変感銘を受けた。
- ・今後、手塚治虫氏生誕 100 年に向けた賑わいづくりや花のみちの活性化を考える上で、宝塚文化創造館に隣接しイベントも開かれるさくら橋公園はセットで重要な場所である。
- ・近々、武庫川浄水場のポンプ施設工事に伴い、さくら橋公園のステージ奥が資材置き場

として使われると聞いている。その際の工事用の囲いについて、一般的な黄色と黒の無機質なものではなく、宝塚市の雰囲気と調和する綺麗な衝立（ついでに）にしてほしい。

・さらにその幅の広い衝立を活用して、宝塚ガーデンフィールズの歴史写真や、手塚治虫氏生誕100年に向けた年表・PRなどを掲示してはどうか。業者や広告などの協力も得ながら、ぜひ急ぎ検討をお願いしたい。

➡市長

・さくら橋公園は厳密にはたからばの敷地範囲には入らないが、一体的な周辺エリアである。

・工事の囲いを活用するアイデアに感謝するとともに、エリア全体の雰囲気をどのように作っていくかは非常に大切な視点である。

### 3 参加者【鉄腕アトム monumento 移設とエリア周辺の交差点改善について】

・手塚治虫氏といえば誰もが鉄腕アトムを思い浮かべるが、現在の手塚治虫記念館周辺にはアトムの形跡がほとんどない。著作権等の難しさがあるとも聞いている。

・昨年（2025年）の大阪・関西万博のパソナ館の先端にアトムが設置されているのを見た。市長の力でコストを抑えてあの万博のアトムをこの地に移設できないか。

・手塚治虫記念館前の交差点が非常に不便であり、人の流れが分断されている。なぜ改善できないのか。警察との関係もあると思うが、コストをかけずにすぐ改善できるのではないか。

➡市長

・万博のパソナ館にあったアトムは淡路島への移設が決まっていると聞いているため、それを譲り受けることは難しい。しかし、アトムが重要なキャラクターであることは間違いなく、手塚プロダクションとも相談しながら、宝塚らしさを表現できるキャラクターの活用方法について知恵を出していきたい。

・交差点について、指摘の通り、花のみち・宝塚大劇場側と文化芸術センター側が分断されており、歩きにくい交差点になっているという課題意識は強く共有している。専門家によると、宝塚市は川に架かる橋が少ないため、あの交差点の車の流れを制限すると周辺が大渋滞してしまうという構造的な問題がある。今すぐの改善は難しいが、今後の新たな橋の建設や道路整備、信号のタイミング調整など、歩きやすい環境作りに向けた努力は継続していく。

### 4 参加者【宝塚らしさの深掘りと手塚治虫氏の作品を通じた日常的な文化育成について】

・賑わいづくりにおける宝塚らしさという言葉は、ブラックボックス化しており、宝塚歌劇や手塚治虫氏といった大きな外向けのコンテンツだけで簡単に片付けてしまうことには疑問を感じる。

・住民それぞれの暮らしの中に異なる宝塚像があるはずであり、過去に観光協会の仕事で文化に関する意識調査に関わった経験からも、何が宝塚らしさなのかを話し合い、リサーチすることは非常に面白い試みになると考える。

・手塚治虫氏の作品の知名度は高いが、実際に深く読んだことがある人は少ないのではないか。単なる観光的なイメージで終わらせず、文化として接続するために、例えば月に

1 回、手塚治虫氏の作品を読んで集まり語り合う場を作るなど、作品を本当に愛する土壌を日常の中から育てていくことが重要ではないか。

→市長

・宝塚歌劇や手塚治虫氏は表面的なキャンペーンとして使われがちだが、それらのコンテンツや市民が持つ多様な文化・芸術をもう一步深掘りすることで、市民が考える本当の宝塚らしさが見えてくるのではないか。そうした深掘りこそが重要である。

・今回の文化芸術センターのような拠点があるからこそ、単なるイメージにとどまらない深い試みが可能であり、それこそが文化であると考えている。

・手塚プロダクションが掲げる「自然への愛」「生命の尊さ」というテーマが本当にそうなのか、あるいはどう解釈するかを市民が自由に語り合う試みは非常に有意義である。個別で異なる宝塚像があっても、この地に惹かれて集まった人々の共通の思いや、私たちらしさを見出すきっかけにしていきたい。

5 参加者【宝塚文化創造館などの特性を活かした音楽イベントと学生の発表の場の創出について】

・文化芸術というテーマから音楽を連想するが、近隣の西宮市や伊丹市のような大規模なホールとは異なるアプローチが必要ではないか。

・文化芸術センターのおおやね広場などを活用して、地元の小学生・中学生・高校生による吹奏楽などの音楽発表イベントを開催してはどうか。家族や関係者だけでなく、音楽ファンも集うような賑わいづくりの場として検討してほしい。

→市長

・宝塚市は音楽のまちを掲げており、市内ではベガ・ホールをはじめ、子どもたちの発表も含めた音楽イベントは他市町に比べても多く開催されている。

・文化芸術センターは構造上、あまり音楽に特化した設計にはなっていないため、音楽イベントは隣接する宝塚文化創造館が主に担っている。ただ、このエリア全体で文化芸術を語る際、音楽の印象が薄くなっているという指摘はその通りである。エリア内で様々なイベント自体は行われているものの、音楽という要素がより伝わるよう、今後の展開においてしっかりと意識して見ていきたい。

6 参加者【個別イベントの連携、歩行者目線の道路改善、および花火の復活について】

・宝塚市は音楽回廊や屋外アート展示など魅力的な小規模イベントが各所にあるが、それぞれが個別で一貫性なく完結しており、周辺店舗への回遊に繋がりにくい。

・文化芸術センター周辺の庭園や花は小規模なため、大規模な場所へ行きがちである。ここを起点に各イベントが重層的に繋がり、わざわざここに来る理由ができる拠点にしてほしい。

・手塚治虫記念館に市民向けの高齢者無料制度があることを現地で初めて知ったため、もっと周知すべき。

・近所でも不親切で渡りにくいと有名な周辺の交差点は、歩行者や住民の視点に立って何とか改善してほしい。また、地元住民からは花火大会を復活させてほしいという声が一番大きい。

→市長

- ・市内各所で小さなイベントが多発している現状は、市民が日々の暮らしの中で文化芸術に触れている証でもあり、決して悪いことではない。ただし、それらが緩やかにつながる集まる場所として、このエリアを位置づける視点は大切にしたい。
- ・他市の歩行者優先の信号形態と比較しても、宝塚市の当該交差点が不便であるという課題意識は強く共有している。やはり武庫川を渡る橋が少ないという市全体の交通インフラの構造的課題が影響しているため、長期的に改善へ向けた努力を続けていく。
- ・現在は市民有志による宝塚きずな花火などの取り組みが行われている。大規模な花火大会の復活は、市の厳しい財政状況に加え、安全面や騒音面で周辺住民への配慮が必要なため簡単には判断できない。時代の変化に伴い、他自治体のように火を使わないドローンショーなどの代替案も含め、今後の発展に向けて様々なアイデアを蓄積していきたい。

#### 7 参加者【施設の高付加価値化、1000人規模ホールの必要性、および地域課題解決への連携について】

- ・宝塚きずな花火は市の支援も得ながら大々的に開催できるようになるまで、資金面の苦労はあるが、実行委員会として一歩ずつ継続していく意向である。市としても許可等の協力を願いたい。
- ・文化芸術センター開設前の図面段階から要望していたが改善が乏しい。地価の高い場所ではあるが、これだけの施設に対して駐車場が少なすぎる。
- ・現在の同センターは空調等の設備面から世界的な一流品を展示できない。子どもたちが本物の教養を高められるよう、狭い部屋でもよいので設計変更を含め一流品を展示できる環境にしてほしい。
- ・かつてあった市民会館が耐震問題で閉鎖されて以来、宝塚市には1000人規模のホールがない。文化芸術センターの屋上（芝生ルーフ）を野外ホールにするなどの工夫も含め、音楽のまちにふさわしい機能を持たせるべきである。
- ・市長の説明にあった地域課題の解決への貢献について、地元のまちづくり協議会としては文化芸術センターがそうした活動を行っていることを全く知らず、住民もほとんど足を運んでいない。館長とも対話し、もっと地域と連携して人を集める仕組みを考えるべき。
- ・ガーデンハウスでのカフェ運営やミニ結婚式の開催など、経済が回り財政面にも寄与するような活性化案を市長のリーダーシップで進めてほしい。

#### ➡市長

- ・駐車場不足の課題は認識しているが、土地代の高さもあり今すぐに整備するのは難しい。まずは不便であってもこの場所に人が集まる工夫を凝らし、お金が回り始めてから駐車場の拡張を検討するという順番が現実的だと考えている。
- ・美術館レベルの設備への変更は現状の建て付けからすぐには難しいが、本物に触れる大切さは理解している。また、1000人規模のホールの必要性にも共感する。財政的に新設は容易ではないが、宝塚大劇場のバウホールが空いている際にお借りする手法や、音響の優れたベガ・ホールの活用など、今ある資源を活かす道も模索したい。
- ・地域との連携不足という指摘も受け止めつつ、この高地価で宝塚らしいエリアがより良く発展し、課題解決の好循環が生まれるよう、今後とも対話を続けていきたい。
- ・文化芸術の分野であっても一定の経済が回る仕組みにしなければ持続可能ではない

め、提案の方向性には強く同意する。

#### 8 参加者【次世代の創作支援（レジデンス）とガーデンハウスのプレミアムな利活用について】

・手塚治虫氏生誕 100 年は大きな節目だが 1 年のイベントで終わってしまう。手塚治虫氏の抜群の認知度と、手塚治虫記念館にある貴重なアーカイブ（財産）を活かし、次世代の若手作家を滞在させて作品を作ってもらおうアーティスト・イン・レジデンス（創作支援）の仕組みを導入してはどうか。

・聖地巡礼などの消費で終わらせず、この地から新たなコンテンツが生まれ出される価値の創造へ繋げるべき。お金をかけずとも、作る人たちにとっての大きなブランドになり得る。

・かつて東京にあった原美術館のように、寄付や協賛をしてくれたプレミアム会員（企業等）への特典として、夜間にライトアップされたガーデンハウスでお洒落なパーティーを開催できる権利を提供してはどうか。家具や照明を整えれば、宝塚市の華やかなイメージに合う特別なロケーションになり、運営資金も集められる。

##### →市長

・若い世代が手塚治虫氏の作品を知る機会をどう作るか、また次の世代の芸術家が育つ場にするという提案は非常に素晴らしい。手塚治虫氏や宝塚歌劇は宝塚市の大きな要素だが、それだけに依存するのではなく、文化芸術が常に生まれ出され続ける場所として発信していきたい。以前、世田谷区で古い邸宅を漫画家たちが保存してアトリエとして活用している事例を聞いたが、そうした仕掛けの可能性を大きく考えていきたい。

・原美術館のようなスケールの大きなアイデアは、宝塚市というブランドであれば実現できる可能性がある。行政だからと小さく考えず、様々な知恵をぶつけ合いたい。

・市内のカフェ経営者から、宝塚歌劇団のスター（ジェンヌ）がファンと親睦を深める小さなお茶会やパーティーを開く場所が少なくて困っているという話を実際に聞いている。商業活動とのバランスは必要だが、そうした宝塚市ならではの華やかなコミュニケーションが生まれる場所としても、このエリアの活用の可能性を感じている。

#### 9 参加者【文化と防災を融合した地域課題解決、大型イベントの必要性、および子どもや映像技術を活かした集客の工夫について】

・宝塚文化創造館では、地域の防災訓練に人が集まらないという課題に対し、コンサート中に火災が発生した想定で避難する避難訓練コンサートを企画・継続してきた。これが評価され、内閣総理大臣表彰などを受賞した。地域の自治会、マンション住民等と真剣に連携して成果を上げている。

・障害のある方や外国籍の方も音楽でつながるみんなでディスコや、文化芸術センター設立前の秋フェスタなど、地域住民がこの街に住んでよかったと思える実験的イベントを行ってきた。

・現在は小規模なイベントが乱立しているため、かつてあった宝塚まつりのような、地域が一体となり夢を見られるような年に 1 回の大きなお祭りをこのエリアで集中して開催したい。

##### →市長

・防災と音楽コンサートを融合させた試みでの総理大臣表彰や、様々な工夫を凝らしたイベント展開に対し、深く敬意を表する。試行錯誤の中から大きく広がる文化芸術の可能性を感じている。

・過去の対話からも、繰り返し人が集まる場所の多くは子どもが行きたがる場所である。ファミリーランドがそうであったように、子どもが何度も行きたがり、それに親や祖父母が同行することで家族の思い出になるような仕掛けやエンターテインメントの要素が必要。

・大阪・関西万博を視察した際、近年の映像技術の進化により、物理的なモノが少なくても深い体験ができると実感した。漫画やアニメという二次元の世界を、映像を通じてリアルと融合させる 2.5 次元的なアプローチであれば、子どもたちも楽しく文化芸術に触れられるのではないか。宝塚市に縁のある東宝株式会社や東映株式会社などの協力も視野に入れながら、こうした映像要素も加えた盛り上げを個人的に期待している。

#### 10 参加者【屋内型子ども遊び場の創出、および最新技術による手塚治虫氏の作品リニューアルと映像発信について】

・尼崎市の競艇場内にある乳幼児・子ども向けの有料遊びスペースが、予約が取れないほど大変な人気を集めている。宝塚市は高齢化が進む一方で、ファミリーランド閉園後は若い世代や子どもが 1 日中楽しめる施設が少ない。有料であっても、企業等とタイアップして空きスペースなどに質の高い屋内遊び場を作れば、若い世代を強力に集客できるのではないか。

・世界的な日本アニメの人気を背景に、企業の力を借りて手塚治虫氏の名作を現代の最新アニメーション技術でリニューアル発信してはどうか。かつて宝塚歌劇が『ベルサイユのばら』で大ブームを起こしたように、映像コンテンツであれば世界中に届き、宝塚市の知名度向上や経済的な潤いにもつながると考える。

#### →市長

・近隣の阪神競馬場内にある子ども向け施設も大人気であり、有料でも質が高く 1 日中遊べる環境の重要性は強く共感する。東公民館の対話でも公園を活かしたプレーパークの要望が出た。子どもが集まれば親や祖父母も集まり、周辺での食事などで経済が回り、結果として地域のコミュニティづくりにもつながるため、非常に大切な視点である。

・現在、ネットニュース等でも『リボンの騎士』のリニューアルプロジェクトが話題になっており、現代的な解釈や最新技術で手塚治虫氏の作品のメッセージを蘇らせる試みが行われている。

・市としても、かつて映画製作所があった歴史を活かし、国内外の映画やドラマのロケ地として宝塚市を使ってもらおうロケツーリズムの取り組みを始めたところである。世界的な映像作品の舞台となることで、宝塚市の魅力をさらに広げていきたい。

#### 11 参加者【アニメ・歌劇の連携による聖地化と音楽学校旧校舎の歴史的景観の活用について】

・近隣の西宮市などの事例を見ても、アニメの聖地には海外も含め多くの人が集まる。宝塚歌劇でも漫画・アニメ原作の演目が上演されており、宝塚歌劇ファンがそのルーツを求めて周辺の手塚治虫記念館エリアへ回遊するような繋がりを意識した聖地化を進めては

どうか。

・先日も宝塚市の街でコスプレイベントが開催され、参加者がそのままの格好で電車を利用できるほど、街に受け入れる土壌がある。宝塚歌劇という素晴らしいコンテンツや、手塚治虫氏生誕 100 周年などの節目とも結びつけながら、この強みを活かしていくべき。

・宝塚文化創造館はかつて宝塚音楽学校の移転時に保存の是非をめぐり大きな議論があった。一時はリニューアルによって往年の雰囲気損なわれる懸念もあったが、現在は外壁の蔦（ツタ）が美しく育ち、当時の姿に戻りつつある。ここから多くのタカラジェンヌとして巣立ったという歴史や土地柄を思い起こさせるこの外観のチャンスを、今後の取り組みに大いに活かしてほしい。

→市長

・手塚治虫氏のゆかりの地は宝塚市だけではないため、手塚治虫氏生誕 100 周年記念の協議会を立ち上げ、生誕地の豊中市、通った小学校がある池田市、阪大医学部があった大阪市とも快く連携して広域的な聖地化を進めている。また、手塚治虫氏が多感な時期（5 歳～24 歳）を過ごした宝塚市内の貴重な邸宅庭園の活用なども視野に入れている。

・コスプレ業界の方からは宝塚市はリアルで絵になる背景が多いと評価されており、この本物のロケーションを活かして毎年多くの方に来ていただいている。これは大変嬉しいことであり、今後も大切にしていきたい。

・宝塚文化創造館の外壁の蔦は、冬場に剪定されて一時期寂しくなるものの、新緑の季節にはご指摘の通り非常に美しい雰囲気になる。この景観を大切にしながら、宝塚歌劇団の OG の皆さんが私たちが過ごした場所としていつでも帰ってこられるような工夫も考えていきたい。

## 12 参加者【サタデースクール（英語教育）の誘致と外国人コミュニティの活用による経済活性化について】

・2000 年前後、英語のネイティブの講師や学生を集めて英語学習を行うサタデースクール（土曜学校）の会場候補として、宝塚文化創造館（宝塚音楽学校旧校舎）が検討された歴史がある。

・宝塚市には国際バカロレア（IB）などの先進的な国際教育に対する高い需要があり、当時は実現しなかったものの、サタデースクールを誘致・運営できれば非常に大きな利益・経済効果が見込める。ぜひ収益性の高い国際教育ビジネスの場としての活用も検討してほしい。

→市長

・国際的な教育・文化の世界は独自の高い需要や規模感があり、子どもたちの発表会一つとっても非常に大きな熱量がある。

・宝塚市は都市部に近く、外国人コミュニティも非常に大きい。現在、各国の領事館関係者とも交流を進めているが、そうした方々に宝塚市にこのような素晴らしい施設があり、活用できるという認知を広げていくことは大変重要である。

・指摘の通り、宝塚文化創造館は国際的なコミュニティや教育イベントの場としても十分に活用できる魅力的な空間であるため、今後のアイデアとして参考にしていきたい。

## 13 参加者【昆虫採集の森（蛇神社）の聖地化と二足歩行ロボット等による PR につい

て】

・宝塚市川面（かわも）地区には、手塚治虫氏が5歳から24歳まで過ごした当時に昆虫採集をしていた森が少し残っており、同氏の作品に登場する蛇神社（現：千吉稲荷神社）がある。土地の所有権などの課題はあるが、手塚治虫氏生誕100年に向けて市も支援し、聖地として整備・コンテンツ化してはどうか。

・花のみちを大幅に変更することが難しいのであれば、こうしたゆかりの地をVRマスクなどを着用して動き回れるような、デジタルコンテンツの開発も有効である。

・著作権の課題はあるが、中国などの先端技術も参考にしつつ、国内の高専生等に協力を仰いで鉄腕アトムの二足歩行ロボットを製作してはどうか。手塚プロダクションの理解を得て開発できれば、広告費をかけずとも国内外のネットメディア等でニュースとして大きく報道され、生誕100年の強力なPRになる。

➡市長

・市の担当者も予算との兼ね合いを考慮しつつ、手塚治虫氏のゆかりの地を改めて再確認し、聖地としてどう活用できるかを検討していく。

・市は厳しい財政状況が続いているため、大きな事業を控えめに捉えがちなメンタリティになりがちだが、今回の手塚治虫氏生誕100周年という節目は夢を語る絶好の機会である。

・提案されたアトムロボットのような面白いアイデアも含め、民間企業などにも広く参画・活用してもらいながら、知恵と工夫を凝らして実現可能な形を模索していきたい。

#### 14 参加者【コンテンツに依存しない空間の心地よさと宝塚らしさの共有について】

・今日の対話を聞いていて、多くの人が宝塚歌劇や手塚治虫氏の作品、新しい施設といったコンテンツ（サービス）の話に終始していることに難しさを感じた。

・例えば、市内の末広中央公園には特定のコンテンツがないにもかかわらず多くの人が集まっている。また、大阪のうめきた公園も、コンテンツがあるから行くのではなく、そこに行けば大阪という街の多様さや圧倒的な心地よさを感じられるからこそ人が集まり、市民が何かを持ち寄って場が盛り上がっている。

・他の街で宝塚市に住んでいると言うと、多くの人から良いところですねと言われるが、それは宝塚歌劇や手塚治虫氏という特定のコンテンツだけが理由ではなく、言葉にしにくい街全体の雰囲気や日常の質に起因しているはずである。

・コンテンツに頼らない部分こそ宝塚市の文化芸術の肝がある。賑わいづくりを考える上でも、こうした目に見えない街の魅力や価値について、市民同士がじっくりと話し合える機会や時間が今後もあると嬉しい。

➡市長

・行政の立場としては、まずは分かりやすいコンテンツをきっかけに足を運んでもらい、空間の魅力に気づいてもらうというプロセスになりがちである。

・指摘の通り、市民がそれぞれの中に少しずつ持っている宝塚らしさは簡単に言語化できるものではない。しかし、こうした空間を通じてお互いの思いを共有し、少しずつ言葉にしていく中で共通の輪郭が見えてくるのだと思う。

・子どもが喜ぶ楽しさや、分かりやすいコンテンツに惹かれる賑わいも大切にしつつ、その根底にある宝塚らしさという目に見えない価値や空間のあり方も同時に大切に守って

いきたい。